

幹事報告

配布物：週報No.5、決算報告書、年間プログラム・
委員会組織表

回覧物：新型コロナウイルス感染をのりこえるた
めの説明書（デルタ株編）

卓話

あぶない刑事（デカ）のあぶなくない仕事 ～人材育成は難しい～

高田東ロータリークラブ 橋本 洋一様



私は上越警察署の署長を最後に定年退職しました。警察は部下の不祥事には厳しい組織です。あぶない刑事にあぶない仕事をさせていたら、こうはいかなかったかもしれません。ちなみに警察官は自分をデカとは呼びません、ケイジです。明治時代の刑事を角袖と呼んだことから、カクソデ→クソデカ→デカと変化していったのです。

警察官というのは、手帳がなければ暴力団員と同じです。署長は署員から「親分」「うちのおやじ」と呼ばれるし、署長は署員のことを「子分」「うちのこども」と呼びます。昔は警察官の仕事指着して「一升酒を飲んで、一升瓶を持って、橋の欄干を歩け。落ちそうになったら引っ張ってやる」なんて言ったものですが。それぐらい、仕事を思い切ってやれ、ということです。

人事担当をしたこともあります、「1日徹夜すると3日休まない」と駄目です」なんてタイプは、警察官に勤まりませんね。採用時には首から下、つまり体力に自信のある人間を、現場で一級品に育てていきます。それには酒です。人材教育に限らず仕事でも、面接を100回するより、酒を1回飲み交わす方がどれだけ有効か。私が高田東RCに入会したのも、酒席に誘われたのがきっかけでした。

でも、今の若い人に志望を聞くと「鑑識に行きたい」「科捜研で働きたい」「サイバー犯罪対策課が希望です」とかが多いそうです。なんでも、人を相手にするのが嫌なんだとか。人材育成は難しいものです。

（広報・会報・雑誌委員会で「あぶない話」を省略し、要旨をまとめました）

高田ローターアクトクラブ創立50周年記念事業

8月28日（土）高田ローターアクトクラブ50周年記念事業として、高田城址公園内にある時計台・噴水・あずまや周辺の清掃活動を総勢32名で行いました。

